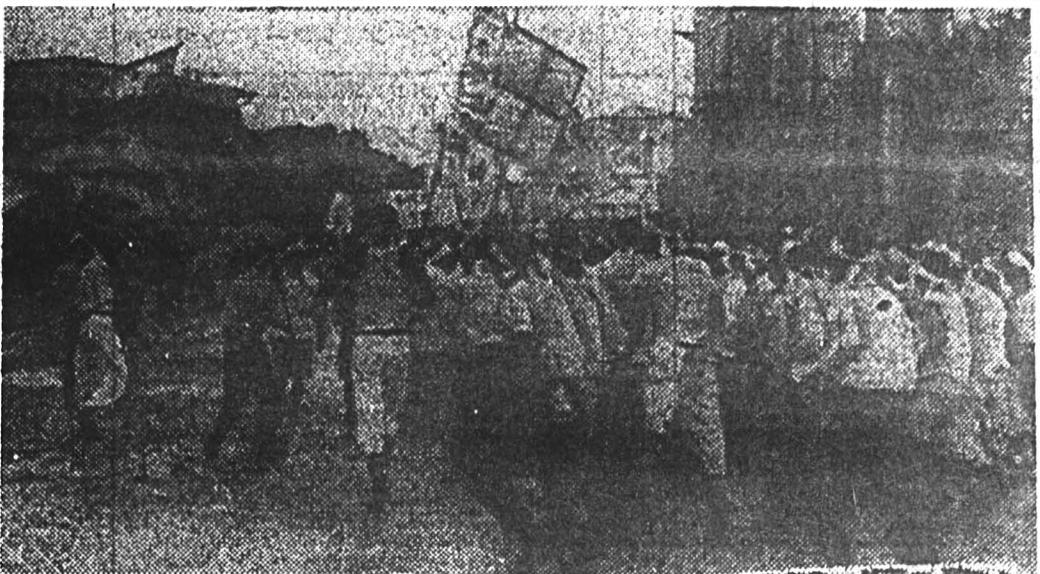


# 「一億円を補償せよ」

## 水俣漁民、工場と団交



「工場海水の完全淨化」  
「公害はわれわれを辛し殺す」  
「狂死はもうらめんだな漁民補償乍落」  
長瀬上美記氏、組合員三百九十七人  
△同郷魚仲販組合組合長中尾

賀一氏、組合員八十人、約四百人  
は六日前八時すぎからアラパー  
ドやのぼりを押立て、市内をシケ  
ザクテモ。市役所で中村市長の  
激励を受け、同士時すぎ新日本水

俣正門からワツショイワツシ  
ヨイのか付帯とともに同工場跡地  
課玄関前になだれ込み、川村野務

課長を追い回したあと廊下に入り  
「工場長を出せ」と口々に叫び、  
玄関のガラスが割れるなど二時は  
收拾もつかない騒乱だったが、間  
もなく子房側から西田工場長は  
じめ石野、尾崎次長、川村庶務課  
長の四人、漁民側から浦上組合  
長、中村參事、山田次作氏ら氏表  
十六人が工場会議室で団交に入っ  
た。

四十一年の被害補償金約五  
十四年二千九十九年の被害補償金約五  
十四万円といふが三百人の漁  
民がこねばつちの金額ですむと思  
うのが、われわれは四年間も  
苦痛をしのんできただのだ。  
在工場便な声も飛び出し、そして午  
後三時すぎころ代表交渉のため  
歴正門前に待機中の他の組合員た  
ちは交渉が長引くのに嫌をいやし

手を叩いて、工場側は「われわれはとにかくさし迫った状態にある。工場は  
誠意を示せ、被害補償金は幾ら出すか答へよ」と要求した。これ

はつきり答えないが、みなさ  
るの被害補償に対しては誠意を持  
つて答えた。この間、

四十一年の被害補償金約五  
十四万円といふが三百人の漁  
民がこねばつちの金額ですむと思  
うのが、われわれは四年間も  
苦痛をしのんできただのだ。  
在工場便な声も飛び出し、そして午  
後三時すぎころ代表交渉のため  
歴正門前に待機中の他の組合員た  
ちは交渉が長引くのに嫌をいやし

手を叩いて、工場側は「われわれはとにかくさし迫った状態にある。工場は  
誠意を示せ、被害補償金は幾ら出すか答へよ」と要求した。これ

はつきり答えないが、みなさ  
るの被害補償に対しては誠意を持  
つて答えた。この間、

再び「ツツショイ、ツツショイ」  
のかけ声とともに工場課玄関前で  
公会議ともみあつた。このあと  
水俣病補償とほ別に漁民被害補償  
一億円を要求したが、工場側はさ  
し当て五十万円を底値見舞金と  
し出され、首間瀬の埋立予定期六六  
二平方㍍(二千坪)の代りに金  
を支払う。一億円の補償金につい  
ては主張責任者が上京、本社とも  
相談しあうと、二十日前十時誠  
意をもって工場長から回答すると  
答えた。

結局漁民側としては五十万円は見  
舞金として受け取り、水俣病補償を  
除く漁民被害補償一億円の要求が  
半分に減らされた場合は再び団交  
に入り、残り五千万円も控えながら  
とする。またその他の補償金も再び  
要求すると発言、さらにわれわれ  
の要求に対しいま違つた工場側  
の回答内容を契約書に書けど強硬  
に要求したため工場側もこれに応  
じた。このあと浦上組合長は契約  
書を漁民の前で朗読、漁民側も一  
応これを了承、同年後五時半引揚  
させた。